



日増しにひどくなる咳 「百日咳」かも

「百日咳」は百日咳菌による細菌感染症です。風邪症状で始まりますが、次第に咳がひどくなり、一旦咳が出ると止まらなくなる「咳込み発作」という特徴的な症状になります。とくに乳児が発症すると脳炎・脳症を伴い致死的になることがあります。1950年ころまで年間10万人を超す患者がみられ、1万人近く亡くなっていて、その大半が乳幼児でした。

ワクチンはこの状況を劇的に改善し、近年では年間の罹患(りかん)者は1～3万人、死亡者は10人以下になっています。現在も4種混合・5種混合ワクチンという形で接種していますが、にもかかわらず罹患者がなくなるのは、ワクチンによる抗体価が年月とともに減衰するためです。そのため当初3歳未満の患者が8割を占めていたものが、1割程度となり、逆に20歳以上の患者が4割を占めています。

現在では医療機関を受診しない大人が百日咳を家庭へ持ち込み、抗体価が下がってしまった小中学生が罹患、そこから乳幼児の弟・妹にうつしてしまうという図式ができています。

コロナパンデミックが終焉しマスクをしない生活が始まった時から、さまざまな感染症が日常に帰ってきています。今年は百日咳で、この半年で罹患者は全国で8万人を超え、広島県でも8月までに2千人を超えて例年の5倍以上となり、それにつれて乳児の死亡例が複数報告されています。ここにきて流行に陰りがでてきましたが、日増しにひどくなる咳が1週間、2週間と続くときには、ぜひ小児科を受診してください。

わき小児科医院
院長 脇 千明